

サビエル生誕五百周年

藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

四鉢というのは、それが違う色の花が咲くらしい。地植えの方が成長に良いといわれ、庭の四方に植えて毎朝起きてすぐ庭にて成長を見守る。

そして最初に咲いた

四鉢の苗だけでな

く、虫がつかないよう

大切な人生訓のこと

を言うようで、特にキ

リス・マタイ福音書七章

人に電話で連絡する。なぜこの花をこれほど大切にするかといえど、花をプレゼントしてくださった友人の気配りがうれしかったからである。

語で言うと「ゴールデンルール」についてである。

自分自身もそうであるが、自分のことばかり考え、隣人との関係が希薄になつてゐるよう

に思えて仕方がない。残りの人生がわずかになつたからかもしれない

が、もつと人との交わりの中に求める幸せがあるのではないか。

ていたが、最近、二つは便利で豊かになったの花の奥行きの深さを感じるのである。

本日の幸せに向かってい

るのだろうかということだ。

とだ。

タイタンビカスの花

「黄金律」とは（上）

友人から「タイタンビカス」という、聞いた歩をする時間、ちょうどこのない花の苗を四鉢もらう。早速イングネットで調べてみると、アメリカ「ヨウドモジ」アメニアオイを交配したのことを友人が知つてアーネットで調べてみると、美しい花が咲いていますね」と言われる。そ

うに大輪の花である。翌日、薄紅色の花が咲いた。多分次は白のタイタンビカスが咲く

であろう。この花、惜しみじアオイを庭全体の花々

しむらくは「日花」ということだ。咲くたびに友

達までプレゼントされ本々々、丁寧に取つて

花の成長のためにと液肥までプレゼントされ坪ばかりの庭の花は、この暑さに負けず美しい花をつけてい

る。



朝顔、ハイビスカスと一日花がこの時期目立つようになる。逆もまた真と言う

が、ユダヤ教、ヒンズー教、イスラム教では「あ

なたにとつて好ましくないことを隣人に対し

てするな」ともある。

最近よく思うことは、昔に比べ物質的に思える。

たくさんつぼみをつけるタイタンビカス

スと一日花がこの時期目立つようになる。この自然の営みはその花の特性だから仕がない。

白鶴が先日、優勝した時「相撲は奥が深い」と言つた。かが庭の花と思う

特に「黄金律」と聖書には書いてないが、咲いた一日花を見な

大切なる律法である。咲いた一日花を見ながら、自分の人生もしよ

せん一日花のようにはないもの。ならばその一日をタイタンビカスの

ように美しく咲きたい。咲かせるその中に黄金